

(2) 現況資料・データ

(参考1) 関市の通勤・通学流動の変化 [H12→H17]

	平成12年			平成17年			H17/H12			H17-H12			
	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者	
常住地による従業・通学区町村(流出)	関市に常住する就業者・通学者	54,605	48,196	6,409	53,839	48,065	5,774	0.986	0.997	0.901	▲766	▲131	▲635
	関市で従業・通学	37,008	32,631	4,377	35,495	31,539	3,956	0.959	0.967	0.904	▲1,513	▲1,092	▲421
	県内他市町村で従業・通学	15,682	13,982	1,700	16,132	14,758	1,374	1.029	1.055	0.808	450	776	▲326
	岐阜市	5,370	4,614	756	4,962	4,400	562	0.924	0.954	0.743	▲408	▲214	▲194
	美濃市	2,564	2,185	379	2,703	2,331	372	1.054	1.067	0.982	139	146	▲7
	各務原市	2,245	2,186	59	2,558	2,512	46	1.139	1.149	0.780	313	326	▲13
	美濃加茂市	1,769	1,587	182	1,962	1,812	150	1.109	1.142	0.824	193	225	▲32
	山県市	604	496	108	723	638	85	1.197	1.286	0.787	119	142	▲23
	富加町	475	474	1	479	479	-	1.008	1.011	-	4	5	▲1
	郡上市	224	220	4	288	287	1	1.286	1.305	0.250	64	67	▲3
	可児市	544	537	7	686	671	15	1.261	1.250	2.143	142	134	8
	坂祝町	345	312	33	338	305	33	0.980	0.978	1.000	▲7	▲7	0
	その他	1,457	1,298	159	1,433	1,323	110	0.984	1.019	0.692	▲24	25	▲49
	県外で従業・通学	1,915	1,583	332	2,212	1,768	444	1.155	1.117	1.337	297	185	112
	名古屋市	743	561	182	885	623	262	1.191	1.111	1.440	142	62	80
	その他愛知県	1,086	956	130	1,227	1,074	153	1.130	1.123	1.177	141	118	23
その他県	86	66	20	100	71	29	1.163	1.076	1.450	14	5	9	
従業地・通学地による常住市区町村(流入)	関市で従業・通学する者	51,984	45,489	6,495	52,390	46,172	6,218	1.008	1.015	0.957	406	683	▲277
	関市に常住	37,008	32,631	4,377	35,495	31,539	3,956	0.959	0.967	0.904	▲1,513	▲1,092	▲421
	県内他市町で従業・通学	13,629	11,911	1,718	15,439	13,660	1,779	1.133	1.147	1.036	1,810	1,749	61
	岐阜市	3,933	3,608	325	4,535	4,203	332	1.153	1.165	1.022	602	595	7
	美濃市	2,798	2,378	420	2,810	2,452	358	1.004	1.031	0.852	12	74	▲62
	各務原市	1,574	1,453	121	1,861	1,726	135	1.182	1.188	1.116	287	273	14
	美濃加茂市	1,273	1,136	137	1,538	1,384	154	1.208	1.218	1.124	265	248	17
	山県市	778	754	24	957	921	36	1.230	1.221	1.500	179	167	12
	富加町	617	445	172	642	489	153	1.041	1.099	0.890	25	44	▲19
	郡上市	445	321	124	559	426	133	1.256	1.327	1.073	114	105	9
	可児市	384	327	57	541	487	54	1.409	1.489	0.947	157	160	▲3
	坂祝町	293	256	37	356	310	46	1.215	1.211	1.243	63	54	9
	その他	1,501	1,205	296	1,640	1,262	378	1.093	1.047	1.277	139	57	82
	県外で従業・通学	1,347	947	400	1,456	973	483	1.081	1.027	1.208	109	26	83
	名古屋市	181	108	73	203	119	84	1.122	1.102	1.151	22	11	11
	その他愛知県	1,021	746	275	1,074	757	317	1.052	1.015	1.153	53	11	42
その他県	145	93	52	179	97	82	1.234	1.043	1.577	34	4	30	

注) 平成12年値は平成17年の市町村区分に合わせて集計。15歳以上の就業者、通学者を対象

資料: 国勢調査

(参考2) 通勤・通学の移動手段

関市内における通勤、通学の移動手段について平成2年および12年の国勢調査結果より整理した。公共交通の利用者(鉄道、バス)の利用者は平成2年の6.5%から平成12年には5.0%に減少している。

一方、自家用車のみの利用者は、平成2年の56.4%から平成12年には72.2%と大きく増加している。

平成2(1990)年の通勤・通学の移動手段

		市内	県内他 市町村	県外	合計	割合
移動手段 1種類	鉄道	71	501	130	702	1.7%
	徒歩	5,398	5	0	5,403	13.3%
	自転車	5,546	793	1	6,340	15.6%
	路線バス	203	666	3	872	2.1%
	自家用車	11,300	10,748	850	22,898	56.4%
	その他	2,178	574	23	2,775	6.8%
移動手段 2種類	鉄道と〇〇	37	600	410	1,047	2.6%
	鉄道以外	74	326	3	403	1.0%
移動手段3種類以上		3	90	85	178	0.4%
合計		24,810	14,303	1,505	40,618	100.0%

公共交通(鉄道、バス)	6.5%
自家用車のみ	56.4%

※公共交通は「鉄道およびバスのみ利用者」、移動手段が2種類で「鉄道と他の移動手段の利用者」の合計

平成12(2000)年の通勤・通学の移動手段

		市内	県内他 市町村	県外	合計	割合
移動手段 1種類	鉄道	45	389	196	630	1.4%
	徒歩	3,051	9	1	3,061	6.8%
	自転車	4,518	552	6	5,076	11.3%
	路線バス	109	403	3	515	1.1%
	自家用車	16,255	15,104	1,126	32,485	72.2%
	その他	1,077	387	59	1,523	3.4%
移動手段 2種類	鉄道と〇〇	56	588	471	1,115	2.5%
	鉄道以外	137	294	6	437	1.0%
移動手段3種類以上		6	113	44	163	0.4%
合計		25,254	17,839	1,912	45,005	100.0%

公共交通(鉄道、バス)	5.0%
自家用車のみ	72.2%

出典：国勢調査（平成2年、平成12年）

(参考3) 関市および周辺地域の買物行動

関市および周辺地域における住民の買物行動から、商圈や消費者行動について、アンケート調査結果（岐阜県消費者購買動向調査 報告書 平成 18 年度、岐阜県産業労働部商業流通課）より整理を行った。

1) 調査の概要

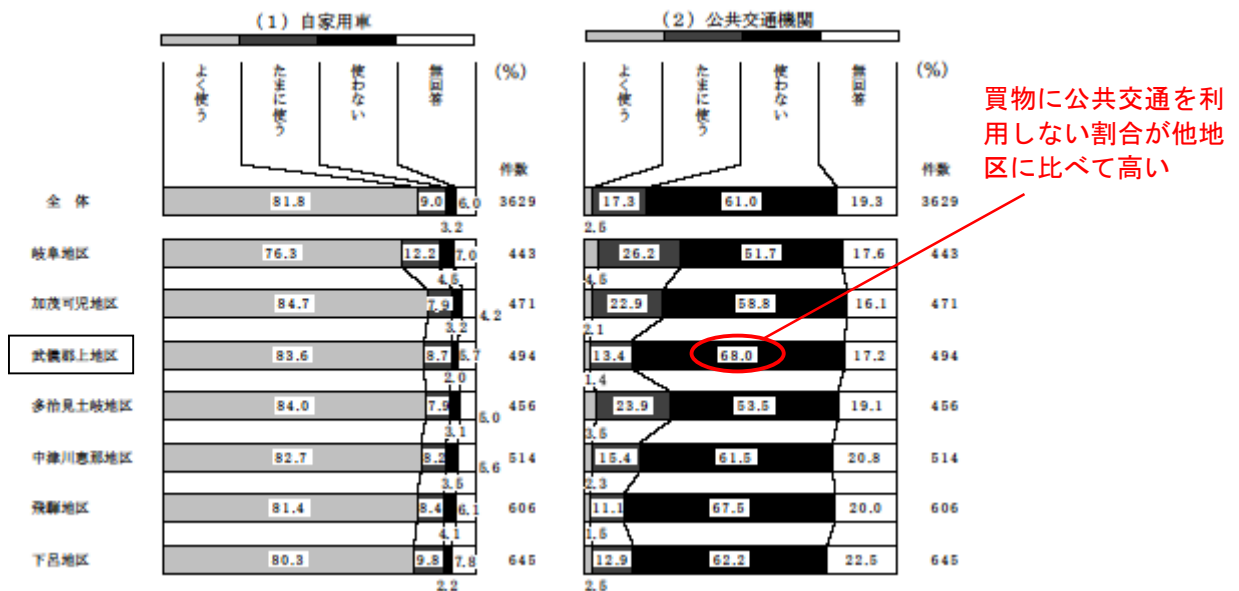
- 調査対象：岐阜県に居住する満 20 歳以上の男女
- 標本数：10,000 サンプル
- 標本抽出方法：選挙人名簿より層化 2 段無作為抽出
- 調査時期：平成 18 年 11～12 月

調査圏域を以下のとおり区分けしている。ここでは、中農：武儀郡上圏域に関する結果をもとに整理する。

圏域名	市町村
岐阜：全域	岐阜市、羽島市、各務原市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町、北方町
中濃：加茂可児	美濃加茂市、可児市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町
中濃：武儀郡上	関市、美濃市、郡上市
東濃：多治見土岐	多治見市、瑞浪市、土岐市
東濃：中津川恵那	中津川市、恵那市
飛騨：飛騨	高山市、飛騨市、白川村
飛騨：下呂	下呂市

2) 買物の交通手段

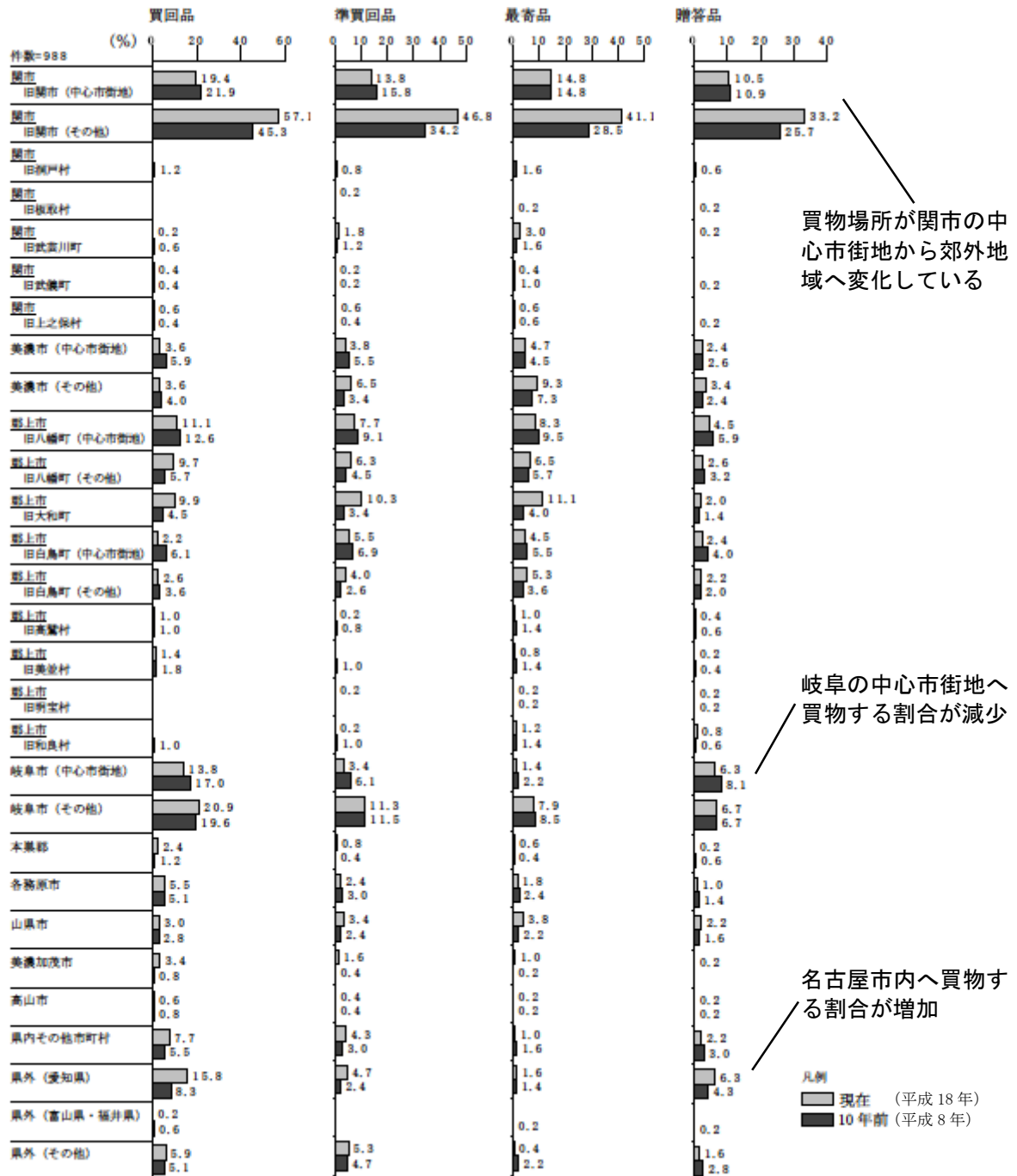
買物する際の交通手段を見ると、関市周辺地区では他の地区に比べて公共交通機関を利用しない割合が高くなっている。



3) 買物場所の変化

関市内の買物場所について、平成18年と10年前の平成8年を比較すると、旧関市の中心市街地で買物する割合が減少しており、旧関市の郊外地域で買物する割合が増加している。

市外への買物先では、岐阜市の中心市街地へ買物に出かける割合が減少しており、岐阜市の郊外地域や名古屋市で買物する割合が増加している。



買物場所が関市の中心市街地から郊外地域へ変化している

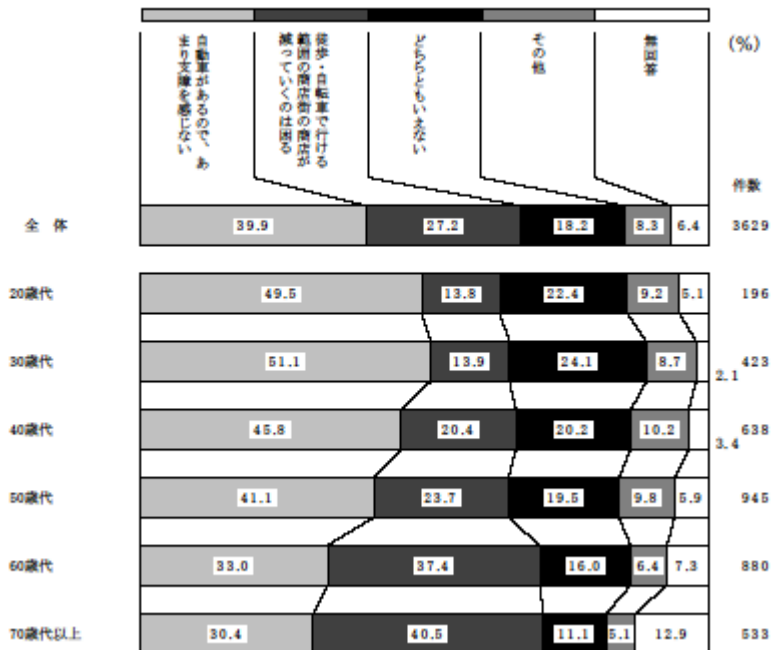
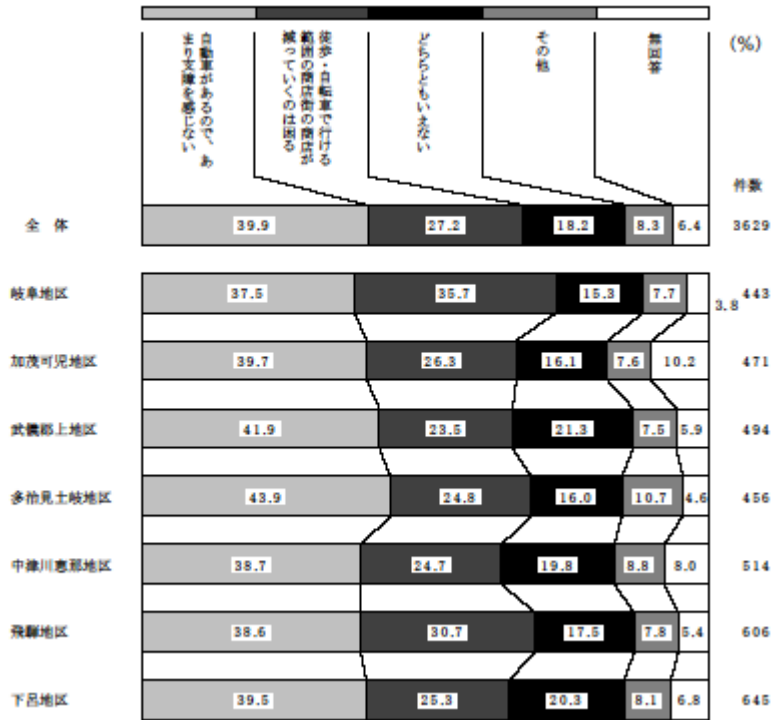
岐阜の中心市街地へ買物する割合が減少

名古屋市内へ買物する割合が増加

4) 郊外の大型店の出店と地元の商店街の減少について

買物の移動手段に自動車を利用している割合が多いこともあり、地元商店街が減少することに対しては、「自動車があるので支障を感じない」と回答している割合が各地区とも高くなっているが、一方で、徒歩や自転車を利用している買物客は「移動範囲に商店街の店舗が減ると困る」という割合も高い割合を示している。

年代別に見ると若い世代は「自動車があるので支障を感じない」と回答している割合が高いが、年代が上がるにつれて、「移動範囲に商店街の店舗が減ると困る」という割合が高くなっている。



年代が上がるにつれて、徒歩や自転車で行ける範囲に店がないと不便を感じる



(参考4) 名鉄美濃町線、長良川鉄道各駅の利用者数

名鉄美濃町線内の各駅の利用者数を見ると、徹明町駅が最も多く、次いで新関駅、日野橋駅、野一色駅、下芥見駅の順となっている。

[名鉄美濃町線各駅の利用者数]

駅名	駅別発着・駅間通過人員表												鉄道定期券・鉄道普通券・合計						単位：人/日		
	定期券利用者						普通券利用者						合計								
	下り			上り			下り			上り			下り			上り					
	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過	乗車	降車	通過			
徹明町	2114	0	2114	0	2114	2114	493	0	493	0	566	566	2607	0	2607	0	2680	2680			
金園町四丁目	0	0	2114	0	0	2114	4	1	496	0	14	580	4	1	2610	0	14	2694			
梅林	0	0	2114	0	0	2114	1	3	494	0	5	585	1	3	2608	0	5	2699			
金園町九丁目	0	0	2114	0	0	2114	0	2	492	0	1	586	0	2	2606	0	1	2700			
競輪場前	0	0	2114	0	0	2114	42	8	526	12	41	615	42	8	2640	12	41	2729			
北一色	0	0	2114	0	0	2114	13	17	522	12	7	610	13	17	2636	12	7	2724			
野一色	251	420	1945	420	251	1945	13	33	502	41	5	574	264	453	2447	461	256	2519			
琴塚	0	0	1945	0	0	1945	0	43	459	52	1	523	0	43	2404	52	1	2468			
日野橋	12	395	1562	395	12	1562	25	168	316	160	31	394	37	563	1878	555	43	1956			
岩田坂	13	53	1522	53	13	1522	5	24	297	23	11	382	18	77	1819	76	24	1904			
岩田	0	148	1374	148	0	1374	3	34	266	31	1	352	3	182	1640	179	1	1726			
下芥見	0	248	1126	248	0	1126	3	48	221	119	4	237	3	296	1347	367	4	1363			
上芥見	0	36	1090	36	0	1090	0	12	209	19	2	220	0	48	1299	55	2	1310			
白金	36	227	899	227	36	899	16	26	199	21	11	210	52	253	1098	248	47	1109			
小屋名	46	90	855	90	46	855	25	24	200	27	25	208	71	114	1055	117	71	1063			
赤土坂	11	28	838	28	11	838	16	12	204	18	23	213	27	40	1042	46	34	1051			
新田	0	22	816	22	0	816	2	23	183	23	14	204	2	45	999	45	14	1020			
新関	0	657	159	657	0	159	0	171	12	174	5	35	0	828	171	831	5	194			
関	0	159	0	159	0	0	0	12	0	35	0	0	0	171	0	194	0	0			
	2483	2483		2483	2483		661	661		767	767		3144	3144		3250	3250				

出典：平成12年度 大都市交通センサス（中京圏）

関市内および周辺市町にある長良川鉄道の各駅の利用者数を見ると、関市内では関駅および関口駅の利用者が多い。

[長良川鉄道各駅の利用者数]

駅名	市町	年度別の利用者数(人/日)								
		H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H19/H13	
美濃太田	美濃加茂市	730	746	843	813	824	1,052	1017	0.718	
前平公園		51	112	72	70	80	72	89	0.573	
加茂野		128	101	95	111	93	100	121	1.058	
富加	富加町	192	199	157	173	188	230	262	0.733	
関富岡	関市	80	79	125	131	122	126	105	0.762	
関口		548	514	462	656	483	524	500	1.096	
刃物会館前		93	92	125	118	112	139	148	0.628	
関		435	378	376	546	554	563	574	0.758	
関市役所前		40	39	30	49	35	37	53	0.755	
関下有知		251	250	172	260	148	161	180	1.394	
松森	美濃市	78	85	75	105	88	99	76	1.026	
美濃市		291	310	297	366	444	482	482	0.604	
梅山		465	452	364	446	395	394	416	1.118	
湯の洞温泉口		40	58	69	65	95	111	134	0.299	
洲原		58	87	74	64	94	94	105	0.552	

(参考5) 名鉄美濃町線廃止の経緯

- ・平成4(1992)年6月30日
名鉄が美濃市および関連自治体に対し、新関～美濃間の廃止を申し入れた。
- ・平成4年9月
美濃市が諮問機関「名鉄美濃町線対策委員会」を設置した。
- ・平成5(1993)年10月25日
同委員会が会合を重ねた結果、「条件付きながら廃止はやむなし」の結論を出した。
廃止にあたって、以下の条件を提示した。
 - ①現利用者の影響緩和と利便性の向上
 - ②長良川鉄道と名鉄との連携強化
 - ③市のすすめる活性化事業への名鉄グループの参加、協力
 - ④長良川鉄道の新駅設置
 - ⑤軌道敷を県道のバイパスにする
 - ⑥駅の敷地を市の活性化のために活用する
- ・平成10(1998)年11月24日
名鉄が鉄道事業の合理化の一環として、岐阜県内の谷汲線（黒野～谷汲 11.2km）、揖斐線の一部（黒野～本揖斐 5.6km）、八百津線（明智～八百津 7.3km）、竹鼻線の一部（江吉良～大須 6.7km）の廃止の方針を発表した。
- ・平成11(1999)年3月4日
美濃町線新関～美濃間の廃止が運輸省の運輸審議会で正式承認された。
- ・平成11年4月1日
美濃町線新関～美濃間が廃止され、新関～関間が開通し、関で美濃町線と長良川鉄道がホームタッチされた。
- ・平成15(2003)年1月24日
名鉄は、平成16年度を目処とした岐阜600V線区からの経営撤退に向けて関係自治体との協議を進めることとした。
- ・平成15年2月7日
「第1回揖斐線・美濃町線・岐阜市内線等沿線市町対策協議会」が設立された。
- ・平成16(2004)年3月1日
名鉄から国土交通省に鉄道事業法による廃止届出書と軌道法による廃止許可申請書が提出された。
- ・平成16年7月27日
岐阜市長が岐阜市議会の協議会にて、岐阜600V線区の存続について断念を表明した。
- ・平成16年11月8日
国土交通省から軌道法の廃止が許可された。
- ・平成17年4月1日
美濃町線・揖斐線・岐阜市内線の600V線区が廃止された。

(参考6) 既往調査の概要

・関まちづくり市民アンケート調査

「関市第四次総合計画」の策定にあたり、市民の生活の意識や生活環境をはじめとするまちづくり全般、市政運営等に対する評価・意向を把握し、新しい計画に反映するために実施されたもので、このうち、市民の交通に関する意識について調査した内容について整理を行った。

1) 調査の概要

調査地域：関市全域

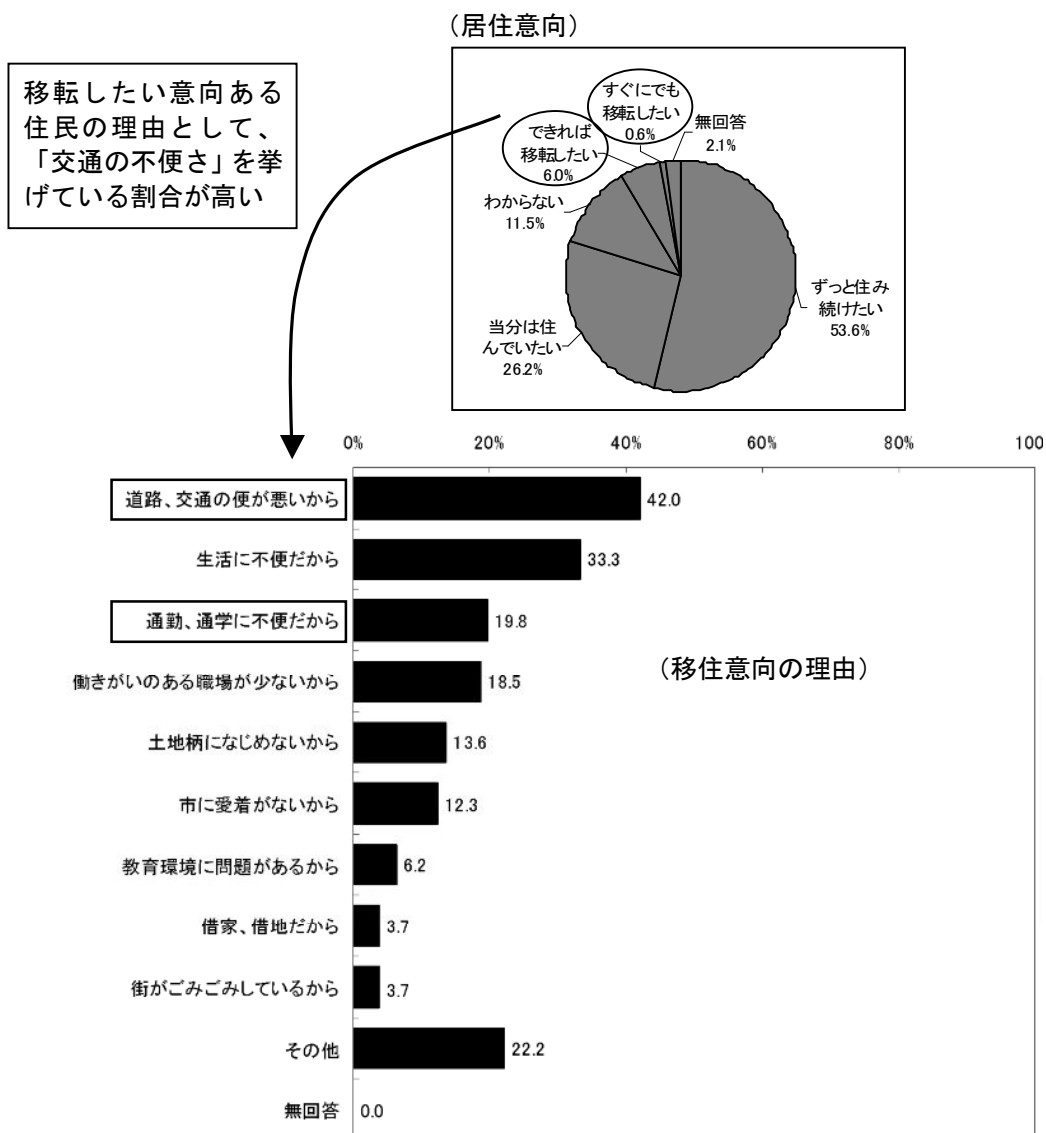
調査対象：関市に居住する18歳以上の市民を住民基本台帳より無作為抽出

配布数・回答数：3,000票配布、有効回答1,235票（有効回答率：41.2%）

調査時期：平成17年8月1～17日

2) 居住の意向

関市での居住意向については、半数以上が「ずっと住み続けたい」と回答している。一方で、「移転したい」意向のある住民の理由として、「道路、交通の便が悪いから」、「通勤・通学に不便だから」を挙げている割合が高い。



・バス利用状況調査

平成17年11月に実施した「揖斐線・美濃町線・岐阜市内線等の廃止に伴う代替バス交通に関するアンケート調査」より、鉄道廃止後の代替バスに対する利用者ニーズ等について調査した内容について整理を行った。

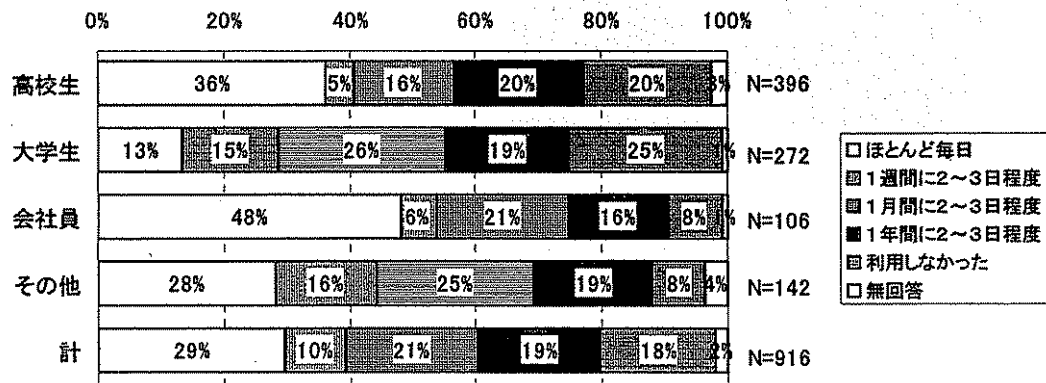
1) 調査の概要

調査地域：美濃町線沿線住民（関～北一色）、揖斐線沿線住民（本揖斐～近ノ島）
 調査対象：高校生、大学生、会社員、その他
 調査時期：平成17年11月15日～12月15日

2) 鉄道および代替バスの利用の変化

鉄道廃止前および廃止後の代替バス利用者の変化を見ると、高校生と会社員は毎日利用する割合が増加しているのに対し、会社員は減少している。また、鉄道は利用しなかったがバスを利用するようになった割合が高校生、大学生、会社員ともに増加している。

(廃止前の鉄道利用状況)



(廃止後のバス利用状況)

